



IBM i

IBM i および関連ソフトウェア データの移行

7.1





IBM i

IBM i および関連ソフトウェア データの移行

7.1

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i 7.1 (製品番号 5770-SS1) および、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモデルファイケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM i
IBM i and related software
Data migrations
7.1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.4

© Copyright IBM Corporation 1998, 2010.

目次

データ移行	1	IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルから の移行の準備	9
IBM i 7.1 の新機能	1	ターゲット・システムの準備	9
データの移行の PDF ファイル	2	ソース・システムの準備	9
データ移行の概念	3	IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルか らの移行の完了	10
IBM i 移行の計画	3	データ移行後のハードウェア・リソース名の修正	12
IBM i データ移行に関するハードウェアの計画	3	シナリオ: データ移行	13
IBM i データ移行に関するソフトウェアの計画	4	データ移行のトラブルシューティング	15
IBM i コンソール接続に関する計画	4	IBM i データの移行の関連情報	15
IBM i データ移行計画の記録	5	付録. 特記事項	19
移行の実行	5	プログラミング・インターフェース情報	21
ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行 の準備	5	商標	21
ターゲット・システムの準備	6	使用条件	21
ソース・システムの準備	6		
ソース・システムの安定化	7		
ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行 の完了	8		

データ移行

- | IBM® i データ移行とは、i5/OS® または IBM i が稼働している 1 台のシステムまたは論理区画から、
 - | IBM i が稼働している別のシステムまたは論理区画にデータを移動するプロセスのことです。システム間
 - | でデータを移行するには、ソース・システムとターゲット・システムの製造番号は異なります。
- | この資料は、IBM i 5.4 以降から IBM i 7.1 へデータを移行する方法について説明します。

製造番号を変更せずに新しいシステムにアップグレードする場合は、システム・アップグレードおよびデータ・マイグレーションのトピックを参照してください。同じシステム上の 1 つの論理区画から別の論理区画へデータを移行する場合は、別の論理区画への論理区画の復元 - チェックリスト 22 の手順に従ってください。

この情報は、1 台のシステムから他のシステムへデータを移動することを前提にしています。同じシステム上に新しいバージョンの IBM i をインストールする場合は、明示的なデータ移行を実行する必要はありません。IBM i および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除を参照してください。

別の移行ツールはフィーチャー・コード 0205 で、無料で新しいシステムと共にオーダーできます。このツールを使用すると、最大 70 日までソース・システムとターゲット・システムの両方で新しいオペレーティング・システムをインストールして実行できます。このフィーチャーを使用するには、ソース・システムにとって有効な IBM Software Maintenance 申し込み書がなければなりません。フィーチャー・コード 0205 は、データを移行するという目的のみに限り、ソース・システムで新しいバージョンとリリースを使用する許可を付与するものです。データ移行の完了後は、ソース・システムに旧バージョンおよびリリースを再導入する必要があります。

IBM では、データの移行のための有償のサービスもご提案しています。詳細については、IBM Migration Services の Web サイトを参照してください。

関連資料

- | 2 ページの『データの移行の PDF ファイル』
- | この情報の PDF ファイルを表示または印刷できます。

関連情報

- |  アップグレード
- | i5/OS および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除
- |  IBM Migration Services



IBM i 7.1 の新機能

データの移行のトピック・コレクションに関する新情報や重要な変更情報についてお読みください。

- | IBM i のシステム・アップグレードおよびデータ移行のトピックは、このトピック・コレクションには含
- | まれていません。ある IBM System i5® または IBM System i® モデル、ハードウェア・フィーチャー、ま
- | たは IBM i リリースから、新規または別の IBM System i5 または IBM System i モデル、ハードウェ
- | ア・フィーチャー、または IBM i リリースにアップグレードする方法に関する情報は、ハードウェアのシ
- | ステム・アップグレードおよびデータ・マイグレーションのトピックを参照してください。

新規情報または変更情報の見分け方

技術上の変更が加えられた場所を見分けるのに役立つように、Information Center では以下のイメージを使用しています。

-  イメージにより、新規または変更された情報の開始点を示します。
-  イメージにより、新規または変更された情報の終了点を示します。

PDF ファイルでは、左マージンに新規および変更情報のリビジョン・バー (I) があります。

今回のリリースの新規情報または変更情報に関するその他の情報は、プログラム資料説明書を参照してください。

データの移行の PDF ファイル

この情報の PDF ファイルを表示または印刷できます。

この資料の PDF 版を表示、ダウンロードするには、**データの移行**を選択してください。

以下の関連したトピック PDF を表示またはダウンロードすることができます。

I システム・アップグレードおよびデータ・マイグレーション

同じ製造番号を保持したまま、新しいハードウェアにシステムをアップグレードしたい場合に、この情報を使用できます。

IBM i および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除

新しい i5/OS リリースでシステムをアップグレードしたい場合に、この情報を使用できます。

I 論理区画化

区画化されたサーバーに、または区画化されたサーバーからアップグレードする場合は、このトピックに、ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用して IBM i 論理区画を作成して保守する方法が説明されています。

サーバーのバックアップ

アップグレードのタスクを実行する前に、システムをバックアップするためにこの情報を使用できます。これにより、アップグレードの際、どこかで問題が発生した場合でも、作動構成を回復することができます。

PDF ファイルの保存

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保存するには、以下のようになります。

1. ご使用のブラウザで PDF リンクを右クリックする。
2. PDF をローカルに保存するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe® Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Reader がご使用のシステムにインストールされている必要があります。このアプリケーションは、Adobe Web サイト

(www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  から無償でダウンロードできます。

関連概念

1 ページの『データ移行』

IBM i データ移行とは、i5/OS または IBM i が稼働している 1 台のシステムまたは論理区画から、IBM i が稼働している別のシステムまたは論理区画にデータを移動するプロセスのことです。システム間でデータを移行する際には、ソース・システムとターゲット・システムの製造番号は異なります。

データ移行の概念

IBM i データの移行とは、あるシステムまたは論理区画から新しいシステムまたは論理区画にデータを移動することです。システム間でデータを移行する際には、ソース・システムとターゲット・システムの製造番号は異なります。

データ移行プロセスには、データ移行の計画、整理、準備、実行が含まれます。環境の複雑さによっては、計画に最大で 6 週間ほどかかることがあります。ソース・システムへの IBM i のインストールには少なくとも 1 時間必要です。ソース・システムからターゲット・システム (管理対象システム と呼ばれることもある) へのデータの移行は、通常、完了するまでに最大 3 日ほどかかることがあります。

関連情報

 IBM Migration Services

IBM i 移行の計画

IBM i データ移行の計画のために時間をかけることによって、ダウン時間を最小化し、移行の実行を容易にすることができます。

関連タスク

5 ページの『移行の実行』

IBM i 7.1 をサポートするソース・システムか、または IBM i 7.1 をサポートしないソース・システムからのデータ移行を準備して実行するには、以下の一般的な手順に従ってください。

9 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備』

ソース・システムに IBM i 7.1 をインストールできない場合、ソース・システムを保管してから、ターゲット・システムにシステム全体のリカバリーを実行することによって、データを移行することができます。

IBM i データ移行に関するハードウェアの計画


実際の IBM i データ移行を実行する前に、ハードウェア要件を確認し、ハードウェアを準備してください。

ハードウェアを準備するには、以下の一般的なタスクを実行してください。

1. ターゲット・システムをフィーチャー・コード 0205 と共にオーダーするか、ターゲット・システムか論理区画を準備する。ターゲット・システムに IBM i 7.1 と共にライセンス内部コードがプリインストールされていない場合、IBM は、ソース・システム上で新しいリリースのオペレーティング・システムにアップグレードしてから新しいシステムにデータを移行することをお勧めします。フィーチャー・コード 0205 は、ターゲット・システムがデータ移行用にセットアップされるようにし、さらにデータ移行を完了できるように、最大 70 日間、ソースおよびターゲット・システムの両方で新しいオペレーティング・システムを実行できるようにします。データ移行が完了した後に、ソース・システム上に以前のオペレーティング・システムを再インストールする必要があります。
2. データ移行に関するハードウェア要件を確認する。詳しくは、ハードウェア仕様書を参照してください。

3. テープの非互換性を確認する。ターゲット・システムと互換性のある、磁気テープ・ドライブがあることを確認する必要があります。磁気テープ・ドライブの互換性があるかどうかを確認するには、Storage Solutions Web サイト、または「System Handbook」を参照してください。磁気テープ装置について詳しくは、『テープ』トピックを確認してください。
4. ターゲット・システムの物理的な計画があることを確認する。ターゲット・システムは、一定期間ソース・システムの近くでセットアップおよび実行します。ターゲット・システムに関係した物理的な計画およびセットアップの考慮事項があります。

関連情報

 [Storage Solutions](#)

 [アップグレード](#)

[テープ](#)

IBM i データ移行に関するソフトウェアの計画

実際の IBM i データ移行を実行する前に、ソフトウェア要件を確認し、ソフトウェアを準備してください。

ソフトウェアを準備するには、以下の一般的なタスクを実行してください。

1. 必要なディスク・ストレージのスペースを見積もる。ターゲット・サーバーで計画されている新しいデータおよびソフトウェアのためだけでなく、新しいオペレーティング・システム、およびソース・サーバーからのデータのためのディスク・ストレージ容量が十分あることを確認してください。
2. 可能なライセンス・プログラムのアップグレード・パスを確認する。IBM i の新しいリリースをインストールすると、いくつかのライセンス・プログラムが動作しなくなる可能性があります。このリリースで使用できなくなるライセンス・プログラム、および適切な代替策を識別してください。さらに、これらのライセンス・プログラムのデータが失われることを避けるため、IBM i の新しいリリースをインストールする前に、サーバーからデータをアクセス可能な位置に移行します。

関連情報

[サーバーがアップグレードのディスク・ストレージ要件を満たしていることの確認](#)

IBM i コンソール接続に関する計画

データの移行後にコンソールを使用することを計画する場合は、ターゲット・コンソールがご使用の環境用に準備されていることを確認してください。

ご使用のコンソールに関連した以下の一般的なタスクを実行します。

1. ソース・システムとターゲット・システムの両方でサポートされているコンソールをサポートします。ご使用のシステムまたは論理区画へのコンソールの接続に関する現在のストラテジーを確認します。現在の接続ストラテジーは、アクティビティの計画に影響を与えます。コンソールの詳細については、IBM Systems Hardware Information Center の IBM i コンソールの管理を参照してください。

重要: システムに直接接続されるオペレーション・コンソールは、IBM i 7.1 ではサポートされません。現在、システムにオペレーション・コンソールが直接接続されている場合、システムでの IBM i ソフトウェアのインストールまたはアップグレードを開始する前に、コンソールを変更する必要があります。これを行わないと、インストールが失敗し、予測できない結果が生じるおそれがあります。コンソールの変更について詳しくは、IBM Systems Hardware Information Center でコンソールの変更のトピックを参照してください。

[コンソールの変更](#)

2. ターゲット・コンソールが、ご使用の環境用にセットアップされており、操作可能であることを確認します。データを移行する前に、ターゲット・コンソールが操作可能でなければならず、独立型サーバーとしてテストされていなければなりません。

関連情報

System i 接続

コンソール、インターフェース、および端末の管理


IBM i データ移行計画の記録

計画タスクを完了したら、データ移行計画の記録を取る必要があります。データの移行を支援する方がいる場合、この計画は、その方が状態を理解するのに役立つだけでなく、移行中に問題が生じた場合に役立つこともできます。

最終的なデータ移行計画には以下のタスクが含まれます。

1. フィーチャー・コード 0205 (使用できる場合) を含めた、最終的なハードウェアおよびソフトウェア計画を記録する。ディスク・ストレージ容量と互換性のある磁気テープ・ドライブの情報を記録します。計画中のこれらの項目によっては、ソフトウェアおよびハードウェアのオーダーに変更が加わる可能性があります。
2. ターゲット・サーバーの物理的な計画を記録する。

IBM Migration Services は、最新の System i モデルへのデータの移行の計画、および実行を支援します。

情報については、Services A-Z  Web サイトの「**hardware/software platform**」でフィルター操作してください。

移行の実行

IBM i 7.1 をサポートするソース・システムか、または IBM i 7.1 をサポートしないソース・システムからのデータ移行を準備して実行するには、以下の一般的な手順に従ってください。

これらのタスクを開始する前に、必要な計画が完了していることを確認してください。データの移行は、以下のいずれかの方法で実行できます。

ソース・システムに IBM i 7.1 をロードできる場合は、以下の手順を実行してください。

1. 『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の準備』
2. 8 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の完了』

ソース・システムに IBM i 7.1 をロードできない場合は、以下の手順を実行してください。

1. 9 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備』
2. 10 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の完了』

関連タスク

3 ページの『IBM i 移行の計画』

IBM i データ移行の計画のために時間をかけることによって、ダウン時間を最小化し、移行の実行を容易にすることができます。

ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の準備

ソース・システムに IBM i 7.1 をロードできる場合に、新しいターゲット・システムへの IBM i データの移行を準備するには、以下の手順に従ってください。

この手順を開始する前に、以下の前提条件となるタスクが完了していることを確認してください。

- 予防保守計画 (PSP) の Web サイトで、予防保守計画 (PSP) 資料を入手し、確認する。IBM i 7.1 データ移行の PSP 文書は、SF98170 です。この文書を調べて、データ移行に影響を与える可能性のある条件に関する最新の情報を確認してください。
- 移行の計画を立てる。

ターゲット・システムの準備

1. コンソールがセットアップされ、ご使用の環境で作動可能になっていることを確認します。詳しくは、System i 接続を参照してください。
2. ターゲット・システムがセットアップ済みで、ライセンス内部コードおよび IBM i 7.1 がインストールされて (フィーチャー・コード 0205) 実行されていることを確認します。
3. システムで論理区画が構成されている場合は、ターゲット・システム上で論理区画の作成を行い、その後、各論理区画にライセンス内部コードおよび IBM i 7.1 をインストールします。これを行うには、各論理区画に最低でも 2 時間を要します。詳しくは、論理区画化を参照してください。
4. ディスク装置管理を実行します (たとえば、ディスク保護とディスク構成の管理)。このためには、「専用保守ツール」画面で「ディスク装置の処理」オプションを使用できます。詳しくは、ディスクの構成とディスク保護を参照してください。

ソース・システムの準備

1. IBM i リリースのアップグレードを準備します。i5/OS ソフトウェアのアップグレードまたは据え置きを参照してください。

以下のことが行われていることを確認します。

- 回線記述の処理 (WRKLIND) コマンドを使用して、未使用の回線と回線記述を表示して削除します。
- 装置記述の処理 (WRKDEV) コマンドを使用して、未使用の装置記述を削除します。

注: WRKLIND コマンドと WRKDEV コマンドを使用すると、すべての記述を表示して使用されているかどうか検査できます。確実に使用されていない記述がある場合は、その記述を削除してください。確実にない場合は、保持しておいてください。

2. 以下の方法で、システム構成情報を印刷します。
 - a. IBM i コマンド行に PRSYSINF と入力して、結果のスパール・ファイルを印刷します。これにより、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、システム値、インストールされている修正 (プログラム一時修正または PTF)、および他の構成情報の報告書が印刷されます。
 - b. 新しいシステム構成リストを印刷して、そのリストを今後参照できるように保存します。その方法については、システム構成リストの印刷を参照してください。
 - c. IBM i コマンド行に WRKDEV と入力します。オプション 6 (印刷) を使用して、装置記述を印刷します。
 - d. IBM i コマンド行に WRKCTLD と入力します。オプション 6 (印刷) を使用して、制御装置記述を印刷します。
 - e. ハードウェア管理コンソール (HMC) がインストールされていない場合に、Linux[®] 区画が定義されている場合、システム保守ツール開始 (STRSST) コマンドを使用して論理区画のシステム構成を印刷します。論理区画のシステム構成の印刷について詳しくは、論理区画のシステム構成の印刷を参照してください。

- 3. データ移行の実行後に、元の状態に復元することができるように、システム全体を保管します。 GO SAVE コマンドのオプション 21 を使用してシステム全体を保管します。GO SAVE コマンドについて詳しくは、GO SAVE コマンドの概要を参照してください。以下のオプションを指定します。
 - a. ネットワーク・サーバーをオフに構成変更 ...*ALL
 - b. ファイル・システムのマウント解除Y
 - c. スプール・ファイル・データ*ALL

注: バックアップ・メディアを 2 つ用意してあることを確認してください。

ターゲット・システムに IBM i 7.1 と共にライセンス内部コードがプリインストールされていない場合は、フィーチャー・コード 0205 は、データ移行を完了できるように、最大 70 日間、ソース・システムおよびターゲット・システムの両方で新しいオペレーティング・システムを実行できるようにします。フィーチャー 0205 を利用するには、ソース・システム上に有効なソフトウェア保守契約がなければなりません。データ移行が完了したら、ソース・システムに以前のオペレーティング・システムを再インストールし、システムを元の状態に復元する必要があります。システムを元の状態に復元するには、Recovering your system にあるステップに従ってください。復元したいリリースの回復情報を使用してください。

ターゲット・システムと共にフィーチャー 0205 をオーダーしていない場合は、9 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備』のトピックの、データ移行に関する他の方式を使用してください。オーダーしている場合は、次のステップに進んでください。

- 4. IBM i 7.1 のアップグレードを完了します。自動インストールを使用したソフトウェアのアップグレードまたは置き換えか手動インストールを使用したソフトウェアのアップグレードまたは置き換えを参照してください。

ソース・システムの安定化

- 1. ソース・システムを新しいリリース・レベルで 2 週間、実行します。
- 2. PTF レベルを最新表示します。新しい累積フィックスパックまたは影響が大きく広範囲に及ぶ (HIPER) フィックスパックを確認します。詳しくは、ソフトウェア修正の使用を参照してください。
- 3. 以下の方法で、システム構成情報を印刷します。
 - a. IBM i コマンド行に PRSYSINF と入力して、結果のスプール・ファイルを印刷します。これにより、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、システム値、インストールされている修正 (プログラム一時修正または PTF)、および他の構成情報の報告書が印刷されます。
 - b. 新しいシステム構成リストを印刷して、そのリストを今後参照できるように保存します。その方法については、システム構成リストの印刷を参照してください。
 - c. IBM i コマンド行に WRKDEV と入力します。オプション 6 (印刷) を使用して、装置記述を印刷します。
 - d. IBM i コマンド行に WRKCTLD と入力します。オプション 6 (印刷) を使用して、制御装置記述を印刷します。
 - e. ハードウェア管理コンソール (HMC) がインストールされていない場合に、Linux 区画が定義されている場合、システム保守ツール開始 (STRSST) コマンドを使用して論理区画のシステム構成を印刷します。論理区画のシステム構成の印刷について詳しくは、論理区画のシステム構成の印刷を参照してください。
- 4. GO SAVE コマンドのオプション 21 を使用してシステム全体を保管します。GO SAVE コマンドについて詳しくは、GO SAVE コマンドの概要を参照してください。以下のオプションを指定します。
 - a. ネットワーク・サーバーをオフに構成変更 ...*ALL

- l b. ファイル・システムのマウント解除Y
- l c. スプール・ファイル・データ*ALL

l 注: バックアップ・メディアを 2 つ用意してあることを確認してください。

次のステップは、移行の完了です。『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の完了』に進みます。

ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の完了

ソース・システムに IBM i 7.1 をロードできる場合は、以下の手順を実行して、ターゲット・システムまたは論理区画にデータを移行してください。

このタスクを始める前に、5 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の準備』のステップを実行してください。

- l 1. ターゲット・システムで、ご使用のシステムの別のシステムへの回復のステップを実行します。制御装置または装置の有効なリソースがシステム上になくなった場合は、12 ページの『データ移行後のハードウェア・リソース名の修正』のトピックにあるステップを実行して必要な修正を行います。
- l 2. 新しいライセンス・プログラムをインストールします。詳しくは、追加ライセンス・プログラムのインストールを参照してください。
- l 3. 以下の方法で、システム構成情報を印刷します。
 - a. IBM i コマンド行に PRTSYSINF (システム情報の印刷) と入力して、結果のスプール・ファイルを印刷します。これにより、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、システム値、インストールされている修正 (プログラム一時修正または PTF)、および他の構成情報の報告書が印刷されます。
 - b. 新しいシステム構成リストを印刷して、そのリストを今後参照できるように保存します。その方法については、システム構成リストの印刷を参照してください。
 - c. IBM i コマンド行に WRKDEVD (装置記述の処理) と入力し、オプション 6 を入力して、装置記述を印刷します。
 - d. IBM i コマンド行に WRKCTLD (制御装置記述の処理) と入力し、オプション 6 を入力して、制御装置記述を印刷します。
 - l e. ハードウェア管理コンソール (HMC) がインストールされていない場合に、Linux 区画が定義されている場合、システム保守ツール開始 (STRSST) コマンドを使用して論理区画のシステム構成を印刷します。論理区画のシステム構成の印刷を参照してください。
- l 4. GO SAVE コマンドのオプション 21 を使用してシステム全体を保管します。GO SAVE コマンドについて詳しくは、GO SAVE コマンドの概要を参照してください。以下のオプションを指定します。
 - a. ネットワーク・サーバーをオフに構成変更 ...*ALL
 - b. ファイル・システムのマウント解除Y
 - l c. スプール・ファイル・データ*ALL

注: バックアップ・メディアを 2 つ用意してあることを確認してください。

- l 5. 通常の運用を再開して、アプリケーションがすべて正常に実行されることを確認します。
- l 6. システム・パフォーマンスを調整します。

これにより、システムはシステム・リソースを最適に使用でき、最も効果的にワークロードを実行できます。詳細については、パフォーマンスのチューニングを参照してください。

IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備

ソース・システムに IBM i 7.1 をインストールできない場合、ソース・システムを保管してから、ターゲット・システムにシステム全体のリカバリーを実行することによって、データを移行することができます。

この手順を開始する前に、以下の前提条件となるタスクが完了していることを確認してください。

- 予防保守計画 (PSP) 情報を入手し、確認する。IBM i 7.1 データ移行の PSP 文書は、SF98170 です。この文書を調べて、データ移行に影響を与える可能性のある条件に関する最新の情報を確認してください。
- 移行の計画を立てる。
- 前のリリースから現行リリースへのサポートに関する説明を参照する。前のリリースから現行リリースへのサポートを参照してください。

関連タスク

3 ページの『IBM i 移行の計画』

IBM i データ移行の計画のために時間をかけることによって、ダウン時間を最小化し、移行の実行を容易にすることができます。

ターゲット・システムの準備

1. ターゲット・システムがセットアップ済みで、ライセンス内部コードおよび IBM i 7.1 がインストールされて (フィーチャー・コード 0205) 実行されていることを確認します。
2. システムで論理区画が構成されている場合は、ターゲット・システム上で論理区画の作成を行い、その後、各論理区画にライセンス内部コードおよび IBM i 7.1 をインストールします。これを行うには、各論理区画に最低でも 2 時間を要します。詳しくは、HMC を使用した i5/OS 論理区画の構成を参照してください。
3. コンソールがセットアップされ、作動可能になっていることを確認します。詳しくは、ご使用のシステムへの接続を参照してください。
4. ディスク装置管理を実行します (たとえば、ディスク保護とディスク構成の管理)。このためには、「専用保守ツール」画面で「ディスク装置の処理」オプションを使用できます。情報については、ディスクの構成とディスク保護を参照してください。
5. ターゲット・システムのための配布メディアのコピーを作成します。

ソース・システムの準備

1. 以下の手順に従ってソース・システムをクリーンアップします。
 - a. 回線記述の処理 (WRKLIND) コマンドを使用して、未使用の回線と回線記述を表示して削除します。
 - b. 装置記述の処理 (WRKDEVD) コマンドを使用して、未使用の装置記述を削除します。

注: WRKLIND コマンドと WRKDEVD コマンドを使用すると、すべての記述を表示して使用されているかどうか検査できます。確実に使用されていない記述がある場合は、その記述を削除してください。確実にない場合は、保持しておいてください。
 - c. ディスク・ストレージ・スペースを終結処理します。詳しくは、ディスク・ストレージ・スペースの終結処理を参照してください。
2. 必要な修正 (プログラム一時修正または PTF と呼ぶ) が適用されていることを確認します。詳しくは、ソフトウェア修正の使用を参照してください。
3. パフォーマンス・データを収集します。これにより、データ移行の前と後のパフォーマンスを比較できます。詳細については、システム・パフォーマンス・データの収集を参照してください。

4. IBM iRTVSYSINF (システム情報検索) と入力します。このコマンドを実行するときには、使用するライブラリーを指定します。一般には、QUPGRADE ライブラリーを指定できます。このライブラリーが存在しない場合は、ライブラリー作成 (CRTLIB) コマンドで作成してください。
5. 以下の方法で、システム構成情報を印刷します。
 - a. IBM i コマンド行に PRTSYSINF と入力して、結果のスパール・ファイルを印刷します。これにより、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、システム値、インストールされている修正 (プログラム一時修正または PTF)、および他の構成情報の報告書が印刷されます。
 - b. 新しいシステム構成リストを印刷して、そのリストを今後参照できるように保存します。詳細な方法については、システム構成リストの印刷を参照してください。
 - c. IBM i コマンド行に WRKDEV D と入力し、オプション 6 (印刷) を入力して、装置記述を印刷します。
 - d. IBM i コマンド行に WRKCTLD と入力し、オプション 6 (印刷) を入力して、制御装置記述を印刷します。
 - e. ハードウェア管理コンソール (HMC) がインストールされていない場合に、Linux 区画が定義されている場合、システム保守ツール開始 (STRSST) コマンドを使用して論理区画のシステム構成を印刷します。論理区画のシステム構成の印刷について詳しくは、論理区画のシステム構成の印刷を参照してください。
 - f. ジョブ・スケジューラーの項目はターゲット・システムに復元されません。ジョブ・スケジューラー項目処理 (WRKJOBSCDE) コマンドの印刷オプションを使用して、現行のジョブ・スケジューラー項目を記録してください。その後、ターゲット・システム上に手動で再作成できます。
6. GO SAVE コマンドのオプション 21 を使用してシステム全体を保管します。GO SAVE コマンドについて詳しくは、GO SAVE コマンドの概要を参照してください。以下のオプションを必ず指定してください。
 - a. ネットワーク・サーバーをオフに構成変更 ...*ALL
 - b. ファイル・システムのマウント解除Y
 - c. スパール・ファイル・データ*ALL

注: バックアップ・メディアを 2 つ用意してあることを確認してください。

次のステップは、移行の完了です。『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の完了』に進みます。

IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の完了

ソース・システムに IBM i 7.1 をロードできない場合は、以下の手順を実行して、ターゲット・システムまたは論理区画にデータを移行してください。

このタスクを始める前に、9 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備』のステップを実行してください。

新しいシステムにフィーチャー・コード 0205 がインストールされていない場合、前のリリースのユーザー・データを新しいシステムに復元するで説明されている、ステップ 1 から 34 をターゲット・システムで実行してください。これらのステップが完了したら、この手順の 8 (11 ページ) のステップから実行してください。

1. ターゲット・システムがセットアップ済みで、ライセンス内部コードおよび IBM i 7.1 のみがインストールされている (フィーチャー・コード 0205) 場合、以下のステップに従ってください。

1. 手動 IPL を実行します。

2. 「IPL オプション」画面で、日時を正しく入力します。値が以下のように設定されていることを確認します。

システムの制限状態開始 = Y
IPL 時のシステムの定義または変更 = Y
主要システム・オプションの設定 = Y

3. 「主要システム・オプションの設定」画面で、「N」を選択して自動構成を無効にします。
4. 「IPL 時のシステムの定義または変更」画面で、以下のステップを行います。
 - a. オプション 3 (システム値コマンド) を選択します。
 - b. 「システム値コマンド」画面で、オプション 3 (システム値の処理) を選択します。
 - c. 「システム値の処理」画面で 2 を入力して、以下に示すシステム値を変更します。
 - QALWBJRST を *ALL (すべてのオブジェクト復元オプションの許可) に変更。
 - QIPLTYPE を 2 (手動 IPL、デバッグ・モードのコンソール) に変更。
 - QJOBMSGQFL を *PRTWRAP (ジョブ・メッセージ・キューの折り返し、および折り返しのためにオーバーレイされるメッセージの印刷) に変更。
 - QJOBMSGQMX を最小値の 30 (ジョブ・メッセージ・キューの最大サイズの 30 MB) に変更。推奨値は 64。
 - QPFRADJ を 2 (IPL 時のパフォーマンス調整および自動調整) に変更。
 - QVIFYOBRST を 1 (復元時に署名を検証しない。署名にかかわらずすべてのオブジェクトを復元) に変更。
 - d. システムがシステム値を変更したなら、F3 (終了) を 2 回押して、「IPL 時のシステムの定義または変更」画面に戻ります。
5. 「IPL 時のシステムの定義または変更」画面で、F3 を押して終了し、IPL を続行します。
6. 「パスワード変更」画面で、現在のパスワードを入力する (最初の IPL でない場合) か、現在のパスワードとして QSECOFR と入力します。それから新しいパスワードを入力します。確認のためパスワードを再度入力して Enter を押します。
7. 前のリリースのユーザー・データを新しいシステムに復元するのトピックで説明されている、ステップ 30 から 34 を実行してください。
8. 制御装置または装置の有効なリソースがシステム上になくなった場合は、12 ページの『データ移行後のハードウェア・リソース名の修正』のトピックにあるステップを実行して必要な修正を行います。
9. 新しいライセンス・プログラムをインストールします。詳しくは、追加ライセンス・プログラムのインストールを参照してください。
10. チェックリスト: IBM i のアップグレードまたは置き換えの完了のステップに従います。
11. ジョブ・スケジュール項目追加 (ADDJOBSCDE) コマンドと、ソース・システムで印刷した情報を使用して、ジョブ・スケジューラー項目を追加します。
12. System i と BladeCenter® および System x®をご使用のシステムにインストールし、オフに変更されている間に保管した場合は、以下のステップに従います。
 - a. サーバー記述のリンクを追加します。各サーバー記述に関して以下を入力します。

```
ADDNWSSTGL NWSSTG (storage_name) NWSD(server_description)
```
 - b. WRKCFGSTS *NWS を入力し、オプション 1 を選択して、統合サーバーを各サーバーでオンに構成変更します。
13. 以下の方法で、システム構成情報を印刷します。

- a. IBM i コマンド行に PRSYSINF と入力して、結果のスプール・ファイルを印刷します。これにより、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、システム値、インストールされている修正 (プログラム一時修正または PTF)、および他の構成情報の報告書が印刷されます。
 - b. 新しいシステム構成リストを印刷して、そのリストを今後参照できるように保存します。その方法については、システム構成リストの印刷を参照してください。
 - c. IBM i コマンド行に WRKDEVD (装置記述の処理) と入力し、オプション 6 を入力して、装置記述を印刷します。
 - d. IBM i コマンド行に WRKCTLD (制御装置記述の処理) と入力し、オプション 6 を入力して、制御装置記述を印刷します。
 - e. ハードウェア管理コンソール (HMC) がインストールされていない場合に、Linux 区画が定義されている場合、システム保守ツール開始 (STRSST) コマンドを使用して論理区画のシステム構成を印刷します。論理区画のシステム構成の印刷を参照してください。
14. GO SAVE コマンドのオプション 21 を使用してシステム全体を保管します。GO SAVE コマンドについて詳しくは、GO SAVE コマンドの概要を参照してください。以下のオプションを指定します。
- a. ネットワーク・サーバーをオフに構成変更 ...*ALL
 - b. ファイル・システムのマウント解除Y
 - c. スプール・ファイル・データ*ALL

注: バックアップ・メディアを 2 つ用意してあることを確認してください。

15. 通常の運用を再開して、アプリケーションがすべて正常に実行されることを確認します。
16. システム・パフォーマンスを調整します。

これにより、システムはシステム・リソースを最適に使用でき、最も効果的にワークロードを実行できます。詳細については、パフォーマンスのチューニングを参照してください。

データ移行後のハードウェア・リソース名の修正

データの移行後に、ハードウェア・リソースのある場所が、ソース・サーバー上のそのリソースがあった場所とは異なる場合があります。

これらのハードウェア・リソース名を修正するには、以下のステップに従ってください。

1. IBM i コマンド行で、WRKHDWPRD と入力します。
2. 「ハードウェア・プロダクト処理」画面で、オプション 5 (記述ラベルの場所の変更) を選択し、Enter を押します。
3. 「Using Change Label Locations (ラベル場所の変更の使用)」画面に関する情報を読んで、Enter を押します。
4. この画面上のラベル情報と、ソース・サーバーのラベルの場所を比較します。この画面の「ラベル」列と、ソース・サーバーの情報が一致している場合は、ラベル情報は一致しています。以下のいずれかが該当する場合は、ラベル情報は一致していません。
 - 画面にラベル情報があるが、ソース・サーバーのその場所にラベル情報がない。
 - ソース・サーバーのラベル情報が、画面上の「ラベル」列の情報と一致していない。
 - 画面上の「ラベル」列に *NONE が表示され、ソース・サーバーに関するラベル情報がある。

注: 追加またはアップグレードされた制御装置または装置について、「ラベル」列に *NONE が表示される場合は、オプション 2 (変更) を選択します。それから、表示されたリストから正しいラベル記述を選択します。問題が発生した場合は、サービス提供元に連絡してください。

- 「ラベル」列に *INCORRECT または *INVALID が表示される。この場合、ハードウェア・リソース情報のタイプと型式番号が、このリソースに現在関連している構成記述のタイプと型式に一致していないことを意味します。サーバーは構成記述をオンに変更できません。
 - *INCORRECT -- 物理場所も ' **' になります。この場合、制御装置または装置記述の有効なリソースがそのサーバー上になくなったことが識別されます。
5. サーバーのラベル情報が (物理) ラベルと同じでない場所がある場合は、「Change Description Label Locations (記述のラベル場所の変更)」画面で、ラベルを変更する必要のある場所ごとに「OPT」列に 2 を入力します。Enter キーを押します。「Change Description Label (記述ラベルの変更)」画面が表示されます。
- 注: 一度に複数の選択を行うこともできますが、画面の下部に「続く…」が表示される場合は、Enter を押さないでください。代わりに、ページを下方に進んで残りのラベルを選択します。
6. 有効なラベル名のリストが表示されます。ソース・サーバーにあったラベルと一致するラベル名を (画面上で) 選択するには、変更する場所ごとに「OPT」列に 1 を入力して、Enter を押します。
- 注: ソース・サーバー上のラベルと一致するラベルが (画面上に) ない場合は、サービス担当員に連絡してください。
7. 複数のラベルの変更を選択した場合は、次のラベルに関する「Change Description Label (記述ラベルの変更)」画面が表示されます。この画面の下部のメッセージは、直前の変更が正常に行われたかどうかを示します。
 8. 変更する必要のあるすべてのラベルについて、直前の 3 つのステップを繰り返します。
 9. 最後のラベルの変更後、「Change Description Label Locations (記述のラベル場所の変更)」画面と更新情報が表示されます。この画面の下部のメッセージは、最後の変更が正常に行われたかどうかを示します。画面の下部に「続く…」が表示される場合は、前方スクロールしてさらに情報を表示します。
 10. 「Change Description Label (記述ラベルの変更)」画面で F17 キーを押して、レコードに関する新しい情報の印刷出力を要求します。
- 注: 印刷出力は、ワークステーションのデフォルトの出力キューに入れられます。後でプリンターをオンに変更して印刷装置書出プログラムを始動すると印刷できます。
11. 印刷出力のラベルと、ソース・サーバー上の「ラベル」列のラベルが一致しているか確認します。エラーがある場合は、ステップ 5 に戻って、ステップを繰り返します。
- 重要:** 問題分析の目的でカードを交換しないでください。カードと装置の製造番号はサーバー構成と結合しています。

シナリオ: データ移行

以下のシナリオは、IBM i データを別のシステムに移動する場合の、さまざまな移行の状態を示しています。

1. **モデル 820 の V5R4 または V6R1 から Power Systems™ モデル 520 システムの IBM i 7.1 への移行**
このシナリオでは、現在 IBM System i モデル 820 システムで V5R4 を実行していますが、そのデータを Power Systems モデル 520 に移行します。

行うべき事柄:

IBM i 7.1 はモデル 820 にはインストールできません。データを移行するには、モデル 520 と互換性のある磁気テープ・ドライブにデータを保管してから、そのデータをモデル 520 に復元する必要があります。

このデータ移行を実行するには、以下のトピックのステップに従います。

- 3 ページの『IBM i 移行の計画』
- 9 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の準備』
- 10 ページの『IBM i 7.1 をサポートしない System i モデルからの移行の完了』

1 モデル 825 の V5R4 から区画に分割された Power Systems モデル 520 の IBM i 7.1 への移行

このシナリオでは、現在 IBM System i モデル 825 で V5R4 を実行していますが、そのデータを IBM Power Systems モデル 520 に移行します。

行うべき事柄:

データを移行するには、モデル 825 上に IBM i 7.1 をインストールする必要があります。その後、モデル 520 上のすべての論理区画に IBM i 7.1 をインストールし、各論理区画からモデル 520 と互換性のある磁気テープ・ドライブにデータを保管し、モデル 520 上でデータを復元します。データを移行する前に、モデル 520 上で論理区画を構成して準備します。

このデータ移行を実行するには、以下のトピックのステップに従います。

- 3 ページの『IBM i 移行の計画』
- 5 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の準備』
- 8 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の完了』

システムで IBM i の新しいバージョンにアップグレードする

このシナリオでは、現在システムで V5R4 または V6R1 を実行していますが、それを IBM i 7.1 にアップグレードします。

行うべき事柄:

同じシステム上で新しいバージョンの IBM i にアップグレードする場合は、明示的なデータ移行を実行する必要はありません。チェックリスト: IBM i ソフトウェアのアップグレードまたは置き換えの準備のステップに従って、IBM i 7.1 にアップグレードできます。

システムを IBM Power Systems モデルにアップグレードする

このシナリオでは、IBM System i にアップグレードします。

行うべき事柄:

製造番号を変更せずに IBM Power Systems モデルにアップグレードする場合は、明示的なデータ移行を実行する必要はありません。システム・アップグレードおよびデータ・マイグレーションのトピックの指示に従ってください。

ハードウェアを新しいシステムに移動すると、データが転送されます。ハードウェアと新しいシステムとの互換性がない場合に、データの移行を実行できます。

このデータ移行を実行するには、以下のトピックのステップに従います。

- 3 ページの『IBM i 移行の計画』
- 5 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の準備』
- 8 ページの『ソース・システム上の IBM i 7.1 を使用した移行の完了』

論理区画間でデータを移行する

このシナリオでは、同じシステム上の 1 つの論理区画から別の論理区画へデータを移行します。

行うべき事柄:

同じシステム上の 1 つの System i 論理区画から別の論理区画へデータを移行する場合は、別の論理区画への論理区画の復元 - チェックリスト 22 の手順に従ってください。

データ移行のトラブルシューティング

この情報には、特定のデータ移行の問題とその解決方法に関連した情報が含まれます。

エラー・メッセージと参照コード (システム参照コードつまり SRC と呼ばれる) により、プロセス中に発生したエラーについて知ることができます。

表 1. データ移行の問題と解決方法

説明	解決方法
コントロール・パネル画面に参照コード A900 2000 が表示される。	この参照コードは、QIPLTYPE が 2 に設定されている場合、またはコンソール画面に装置記述がない場合に表示されます。この参照コードとメッセージは、データ移行中に表示される場合は正常なものです。その後、通常の IPL を実行すると、この参照コードは表示されなくなります。参照コード A900 2000 が表示されるときにシステム上に操作可能なワークステーションがない場合、認可されているサービス提供元に連絡してください。
メッセージ ID CPF3717: ファイルが選択されていない。ファイル <i>filename</i> のファイル・ラベルまたはファイル名が一致しません。が表示される。	このタイプのメッセージは、磁気テープ・ドライブに無効なテープが挿入されている場合、または RESTORE コマンドに無効なパラメーターが指定されている場合に表示されます。
IBM i 7.1 をサポートしていないシステムから移行するときに、ターゲット・システムにジョブ・スケジューラー項目が復元されない。	ジョブ・スケジューラー項目は、ターゲット・システムで手操作で再作成する必要があります。データを移行する前にこれらの項目を印刷していなかった場合は、ソース・システムから入手できます。
ソース・システムのデータを保管するのに使用したテープを、ターゲット・システムで読み取ることができない。	ターゲット・システムと互換性のある磁気テープ・ドライブを使用して、ソース・システムのデータを保管してください。
平衡型装置を構成できない。	ソース・システム上で平衡型コンソールを使用していて、ターゲット・システム上でオペレーション・コンソールを使用している場合は、ターゲット・システムから実行する予定のすべての平衡型装置用に平衡型制御装置があることを確認してください。

詳細については、予防保守計画 (PSP) の Web サイトで、『予防保守計画 (PSP)』の資料を参照してください。IBM i 7.1 データ移行の PSP 文書は、SF98170 です。この PSP 文書は、影響が大きく広範囲に及ぶ問題について説明します。

IBM i データの移行の関連情報

製品マニュアル、IBM Redbooks® (PDF 形式)、Web サイト、およびその他の Information Center のトピック・コレクションには、データの移行のトピック・コレクションに関連した情報が記載されています。以下の PDF ファイルのいずれも表示または印刷できます。

マニュアル

- iSeries プログラム資料説明書

この資料は、システムの運用に影響を与える可能性のあるソフトウェアおよびハードウェアの変更点について説明しています。

- **IBM i および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除** 

IBM i の新しいリリースにシステムをアップグレードする場合、この情報を使用します。このマニュアルは、IBM i Information Center 中のトピックにもなっています。IBM i および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除を参照してください。

IBM Redbooks

- **IBM System i5 Handbook** 

この資料は、System i のモデルとフィーチャーのハードウェアの概念および技術仕様について紹介しています。

- **IBM System i5, eServer™ i5, and iSeries® System Builder** 

この資料は、これらのモデルおよびフィーチャーの詳細情報および構成規則について説明しています。

- **iSeries Server Migration** 

この資料は、PCI テクノロジーに関連したさまざまなトピックを説明しています。さらに、高速リンク (HSL) や並行保守機能などの他の重要な機能についても概説しています。また、計画に役立つアップグレード・シナリオが紹介されています。このシナリオでは、ソース移行のロードおよび LPAR 機能への移行などのアップグレードを説明しています。さらに、ハードウェアでの投資を保護し、新しいテクノロジーへ移行する拡張装置オプションについて説明しています。

Web サイト

- **IBM Migration Services** 

この Web サイトでは、システムのアップグレードを支援するために IBM が提供しているサービスの情報を紹介しています。サービスには、最終的なハードウェアおよびソフトウェアの構成と、インストール計画を決定する計画セッションが含まれています。サービス担当者は、i5/OS の最新のリリースへのシステム・アップグレード、SPD 接続の入出力から PCI 接続の入出力への移行、ディスク装置移行の実行、システムの統合などのオンサイト・サービスも提供できます。

- **IBM System i Support: Planning** 

この Web サイトでは、さまざまな計画ツールと情報へのリンクが用意されています。

- **System i Support Planning: Migration and Upgrades** 

この Web サイトでは、i5/OS オペレーティング・システムの今後のリリースまたは今後のモデルでサポートされなくなる可能性のある製品またはフィーチャーに関する情報と、Product Previews、および Statements of Directions を掲載しています。

- **IBM System Planning tool** 

IBM System Planning tool (LPAR Validation tool) は、区画環境を計画するのを支援する Web ベースのツールです。

- **Dynamic logical partitioning** 

この Web サイトでは、論理区画の方法に加え、計画、サービス、および教育課程について紹介しています。

- **Performance Management for IBM System i** 

この解説書は、パフォーマンスのベンチマーク測定、容量の計画、およびシステム・パフォーマンスの計画に役立つ、システム・パフォーマンスに関する高度な技術情報を紹介しています。

- **IBM Systems Workload Estimator** 

Workload Estimator tool は、さまざまなワークロードに必要な推奨モデル、プロセッサ、対話型フィーチャー、メモリー、およびディスク装置を説明する Web ベースのツールです。

その他の情報

- **予防保守計画 (PSP) 情報**

PSP に含まれている情報では、移行に適用される修正について説明されています。データをシステム間で移行する前に、この情報を確認してください。

- **システム・アップグレードおよびデータ・マイグレーション**

製造番号を保持したまま、新しいハードウェアにシステムをアップグレードする場合に、この情報を使用します。

- **サーバーの区画化**

論理区画を使用することにより、単一のシステムにリソースを分散して、複数の独立したシステムのように機能させることができます。このトピックでは、区画化の概念について説明し、論理区画の処理について作成から管理の方法まで説明しています。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

- | 本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・コードの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2008. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. 2008. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書「データの移行」には、プログラムを作成するユーザーが i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

- | IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。
- | 現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows NT[®] および Windows ロゴは、Microsoft の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan